

弘前大学グリーンカレッジ 募集・入校案内

~~ 平成27年度「後期」入校生 ~~



弘前大学が、あなたの「学びたい」を実現します。



弘前大学

グリーンカレッジ

~~弘前大学グリーンカレッジへようこそ~~

- 弘前大学では、地域のみなさんの「学び直し」を応援するため、本学学部学生に向けて開講している授業の一部を一般に開放し、学生と一緒に学んだり、サークル活動や大学行事にも参加するなど、一緒にキャンパスライフを経験していただく場として、弘前大学グリーンカレッジを開校します。
- そこで、弘前大学でキャンパスライフを経験したいと思われるみなさんを対象に、グリーンカレッジ入校生(以下「カレッジ生」という)を募集します。資格は問いません。興味のある方は、ふるってご応募下さい。申込み要領は、3頁をご参照下さい。

★募集にあたり、以下の日程で募集説明会を開催します。

募集説明会及び申込みの詳細は、3頁の弘前大学連絡先へお問い合わせ下さい。

日時:平成27年7月10日(金)10:30~

場所:弘前大学附属図書館3F ラーニングコモンズ



※この冊子は、入校案内(27年度後期分)を兼ねておりますので、入校後もご活用ください。

目 次

I カレッジのしくみ

■カレッジの在校期間（学年・学期，在校期間）	・ ・ ・ ・ ・ 1
■カレッジの特徴（豊かなキャンパスライフ）	・ ・ ・ ・ ・ 1
■授業期間及び時間	・ ・ ・ ・ ・ 1
■授業科目等	・ ・ ・ ・ ・ 2
■入校料，受講料及び納付についての注意	・ ・ ・ ・ ・ 2
■修了	・ ・ ・ ・ ・ 2
■再入校	・ ・ ・ ・ ・ 2
■グリーンカレッジ総合窓口	・ ・ ・ ・ ・ 2

II 入校（又は再入校）の申込み

■入校（又は再入校）条件・申込み・合否	・ ・ ・ ・ ・ 3
■入校手続・入校決定	・ ・ ・ ・ ・ 3
■入校式及びガイダンス	・ ・ ・ ・ ・ 3

III カレッジ生の心得

■カレッジ生の心得	・ ・ ・ ・ ・ 4
■カレッジ生の入校取消	・ ・ ・ ・ ・ 4
■受講形態	・ ・ ・ ・ ・ 4
■担当教員への連絡方法	・ ・ ・ ・ ・ 4
■休講情報等	・ ・ ・ ・ ・ 4
■附属図書館の利用	・ ・ ・ ・ ・ 4
■附属施設等の利用	・ ・ ・ ・ ・ 4
■学生保険・損害賠償	・ ・ ・ ・ ・ 4
■通学方法等	・ ・ ・ ・ ・ 4
■急病の場合	・ ・ ・ ・ ・ 4

IV 入校までの流れ

・ ・ ・ ・ ・ 5

V 別 紙

【別紙1】入校申込書	・ ・ ・ ・ ・ 6
【別紙2】入校用レポート用紙	・ ・ ・ ・ ・ 7
【別紙3】誓約書	・ ・ ・ ・ ・ 9

VI シラバス

開放科目概要（シラバス）	・ ・ ・ ・ ・ 10
--------------	--------------

弘前大学グリーンカレッジ 募集・入校案内

～～ 平成 27 年度「後期」入校生 ～～



～～弘前大学グリーンカレッジへようこそ～～

I カレッジのしくみ

■カレッジへの入校生は、カレッジ生といいます。

■カレッジの在学期間（学年・学期、在学期間）

- ・カレッジの学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。
- ・在学期間は1年間です。
- ・カレッジの学期は、カレッジ学期といい、以下の2区分です。
 - (1)前期 4月～9月
 - (2)後期 10月～3月

※ 今回の募集は、特別に平成 27 年度「後期」から開始します。
この半年間は試行期間となり、引き続き平成 28 年度 1 年間の在学期間となります。

■カレッジの特徴（豊かなキャンパスライフ）

- ・カレッジ生には、開放科目の受講ができる他に、独自科目として弘前大学長の講演や学長を囲む交流会などが用意されています。
- ・カレッジ生には、カレッジ学生証及び期間満了時には修了証を交付します。
- ・カレッジ生第一期生は、入校料及び受講料（平成 27 年後期分）は無料です。
- ・カレッジ生は、弘前大学キャンパス内の様々な施設が利用できます。
（附属図書館、学生会館、イングリッシュラウンジ、自学自修室など）
- ・カレッジ生は、学生と一緒にサークル活動や総合文化祭やシンポジウムなど大学で行われる行事への参加ができます。

■授業期間及び時間

- ・H27 年度 後 期 平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日まで
- ・H28 年度 前 期 平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日まで
- ・H28 年度 後 期 平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日まで
（休業日・振替授業日等があります。必ず授業日程をご確認下さい。）

- ・授業開始日 平成 27 年 10 月 1 日（木）

- ・授業 時間

時 限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時 間	8:40 ～ 10:10	10:20 ～ 11:50	12:40 ～ 14:10	14:20 ～ 15:50	16:00 ～ 17:30

■授業科目等

1. カレッジ生の受講科目は、「開放科目」と「独自科目」です。

①「開放科目」は、「グリーンカレッジ授業科目一覧, シラバス」により、受講科目をお選び下さい。

なお、授業科目には受入数の制限がありますのでご注意ください。

②「独自科目」は、不定期に開講しますので、随時お知らせします。

2. 受講科目については、単位の付与はいたしません。

(単位取得を希望される場合は、「科目等履修生」という別の制度がありますので、各学部の科目等履修生窓口でお問い合わせ下さい。)

■入校料、受講料及び納付についての注意

1. 入校料は当分の間、無料です。

2. 開放科目は、1科目 11,500円 です。

3. 独自科目は、無料です。

4. 一旦納入された受講料は、原則として返還できませんのでご了承下さい。なお、在校期間途中で入校取消しがあった者については、以下のとおりとなりますのでご注意ください。

(1) 開放科目の受講辞退による入校取消の者について、当該科目の授業開始前に届け出のあった者については、その限りではありません。

(2) カレッジ生としてふさわしくない行為(カレッジ生心得を守らないなど)により入校取消の者については、授業開始前でも既納の受講料は返還しません。

■修了

以下の全てを満たす場合に、修了証を授与いたします。

1. 在校期間((前期)から引き続き(後期)の1年間)を満了した場合。

2. 開放科目を学期ごとに1科目以上受講した場合。なお、受講状況を勘案します。

3. その科目ごとにグリーンカレッジ専用の受講レポートを提出し、修了証授与にふさわしい内容とされた場合。

■再入校

カレッジを修了した後、再度の入校を希望するものには入校条件を満たす場合に原則認めています。その際は、再入校のための手続を行うことが必要です。詳細は、Ⅱ(1.～4.)をご覧ください。

■グリーンカレッジ総合窓口

カレッジ生の在校期間内の様々な事柄に関することは、以下の窓口にご相談下さい。

【弘前大学学務部教務課教務企画グループ教務企画担当】

TEL: 0172-39-3709 メール: jm2108@hirosaki-u.ac.jp

【窓口受付時間: 9:00-17:00】

Ⅱ 入校（又は再入校）の申込み

■入校（又は再入校）の条件・申込み・合否

1. カレッジへの入校（又は再入校）条件は、本学科目を受講するに十分な知識・意欲があること、カレッジ学期（前期及び後期）において、開放科目をそれぞれ1科目以上受講することです。
2. カレッジへの入校（又は再入校）を希望する方は、以下の期日までに所定の申込み書を郵送又は窓口にご持参下さい。
 - (1) 申込み受付日：平成27年7月13日（月）から8月21日（金）
 - (2) 申込み書：
 - ①グリーンカレッジ入校（又は再入校）申込み書 **【別紙1】**
（顔写真は裏面に必ず氏名をお書きの上、申込書に貼り付け下さい）
 - ②志望動機（弘前大学での[学び]や[活動]について）をレポート1枚（500字以上800字以内） **【別紙2】**
 - ③運転免許証，保険証，パスポート等の身分を証明できる書類（写し）いずれか1枚
 - (3) 提出先（窓口）：〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学学務部教務課教務企画グループ 教務企画担当（総合教育棟1F）
TEL：0172-39-3709 メール：jm2108@hirosaki-u.ac.jp
【窓口受付時間：9:00－17:00】
3. 合否は、面接及びレポート（志望動機など）により総合的に判断します。
4. 面接日は、8月24日（月）から8月31（月）までの平日いずれかに行います。申込み書を受領後、面接日と面接場所を折り返し、電話にて連絡いたしますので、連絡がとれるようにご配慮をお願いします。
5. 合否結果は、郵送でお知らせします。

■入校手続・入校決定

6. Ⅱ－5. により「合格」の連絡のあった方は、以下の書類を郵送又は窓口にご持参下さい。
書類の提出により入校手続が完了します。手続の完了後、入校許可書，カレッジ学生証，授業用シラバス等をお渡しします。
 - (1) 誓約書 **【別紙3】**
 - (2) 「合格通知書」と共に送付される**【グリーンカレッジ用納付書】**により受講料を納付し、その領収書をお送り下さい。**【今回（H27 後期分）は無料です。】**

○受講料 1科目 11,500円
※ただし、平成27年度後期は試行期間につき、無料となりますので納付不要です。
なお、平成28年度分については、授業開始前にあらためてご案内します。
 - (3) 郵送先及び窓口は、前述2. の(3)のとおり。

■入校式及びガイダンス

7. 入校式を行い、弘前大学グリーンカレッジ生を迎えます。また、引き続き、グリーンカレッジの受講方法や学生生活の注意についてガイダンスを行います。
開催日は、平成27年9月25日（金）13:30～です。詳細はあらためてご案内します。

Ⅲ カレッジ生の心得

■カレッジ生の心得

入校生は、来校する際は「カレッジ学生証」を携帯下さい。キャンパス内では、本学の教育・研究に支障がないように、正課外の活動や日常生活においても風紀を乱すことのないようご注意下さい。また、カレッジ開放科目の受講にあたっては、授業担当教員の指示に従って下さい。

■カレッジ生の入校取消

カレッジ生としてふさわしくない振る舞いや言動があった場合、入校を取り消すことがあります。なお、その場合、既納の受講料は返還できません。

■受講形態

- ・カレッジ開放科目の受講形態については、当該科目を履修する本学学部学生と同様ですが、試験は課されません。（ただし、グリーンカレッジ専用のレポートを提出していただきます。）
- ・受講料以外の、授業で使用するテキスト代及び授業に係るその他の費用は、カレッジ生の負担となります。

■担当教員への連絡方法

担当教員への連絡方法は、各教員の授業での指示に従って下さい。不明な場合は、グリーンカレッジ総合窓口にご相談下さい。

■休講情報等

休講、補講、教室変更等の連絡は公用掲示板によって行います。
掲示板(21世紀教育科目)は総合教育棟の1階にあります。学部(専門教育科目)は各学部教務担当又は学務担当の掲示板をご覧ください。また、臨時休業日、振替授業日等が既に決まっている日があります。授業日程を必ずご確認ください。
不明な場合は、グリーンカレッジ総合窓口にご相談下さい。

■附属図書館の利用

附属図書館を自由にご利用いただけます。入館の際にはカレッジ学生証をご提示下さい。
附属図書館は、昨年に改修されたばかりの建物です。閲覧ブースはもちろん、新しく設置のラーニングコモンズスペースやパソコン室、カフェブースもある安らぎの楽しい空間です。

○開館時間は下表のとおりです。詳しくは弘前大学附属図書館利用案内をご確認ください。

		授業期	休業期
附属図書館（本館）	月～金曜日	9:00～22:00	9:00～17:00
	土・日曜日	10:00～17:00	休 館
医学部分館	月～金曜日	9:00～22:00	9:00～17:00
	土・日曜日	10:00～17:00	10:00～17:00

■附属施設等の利用

弘前大学資料館、イングリッシュラウンジ、総合教育棟自習室、大学会館、生協食堂等の様々な学内施設をご利用いただけます。

■学生保険・損害賠償

実技・実習やフィールドワーク等事故発生が予想される授業科目の受講や学生サークル活動、その他学生生活において、万が一の備えのため、（①学生教育研究災害障害保険・学生教育研究賠償責任保険又は②学生総合共済（生協））のうち、どれかに必ず加入して下さい。

■通学方法等

本学では駐車場スペースがありませんので、公共の交通機関等をご利用下さい。万一これに違反し、トラブルや事故が起きた場合、大学側では責任を負いかねますのでご了承下さい。

■急病の場合

急病の場合は、保健管理センターにおいで下さい。

応募期間: 7/13～8/21

応募説明会(7/10)

【1】 入校希望

【2】 申し込み

・申込書, レポート(志望動機など)提出

↓

・レポート(志望動機など)確認, 面接実施

【3】 合格通知

【4】 入校手続

・入校案内等の通知

・誓約書等提出

・受講料納付(今回は無料)

入校決定(許可)

入校式(9/25)

・ガイダンス(説明会)

【5】 受講開始

・1年間のキャンパスライフ

・前期受講科目レポート提出

・後期受講科目レポート提出

・レポート審査, 受講状況表, 修了生決定

※ 受講の期間中, 不定期に
独自科目の開講が
あります。

【6】 修了

※再入校を希望の方は【2】からスタート

〔 平成27年度後期入校者は, 在校期間が平成28年度末までですので,
平成28年度の申込みは不要です。 〕

平成 27 年度(後期) 弘前大学グリーンカレッジ 入校申込書

平成 年 月 日

弘前大学グリーンカレッジ校長 殿

氏名 印

私は、弘前大学グリーンカレッジに入校を申し込みます。
弘前大学グリーンカレッジに入校が認められました上は、グリーンカレッジ生の心得を守ります。

記

フリガナ				写真 縦 4.0cm × 横 3.0cm 無帽上半身正面 無背景 (注1)
入校申込者氏名	男・女			
生 年 月 日	年 月 日 (才)			
連絡先等 (注2)	〒 —			E-mail
	電話番号 () —		携帯番号 — —	
職 業	該当を○で囲んで下さい。 会社員 ・ 自営業 ・ 主婦 (夫) ・ 学生 ・ その他 ()			
受 講 科 目	前期・後期の別	科目番号 (注3)	授 業 科 目 名	担 当 教 員

(注1) 写真の裏面に必ず氏名を記入して、貼って下さい。**(注2)** 面接日と場所を、電話で連絡しますので、連絡のつく電話番号を、必ずご記入下さい。**(注3)** シラバスに記載の科目番号を記入して下さい。

※【個人情報の取り扱いについて】

ご記入の個人情報については、グリーンカレッジの目的以外には使用いたしません。

※平成28年度に入る前に、別途、受講希望科目を所定用紙により申し出ていただきますので、お忘れのないようご注意下さい。

整理番号

※

【別紙 2】

500字以上800字以内

氏名 _____

[illegible]

グリーンカレッジ入校用レポート

[illegible]

誓 約 書

弘前大学グリーンカレッジ校長 殿

私は、弘前大学の学生とともに「学び」・「交流」し、
「カレッジ生の心得」を守り、高度で専門的な学修と自由
闊達な学生生活を送ることを誓います。

平成 27 年 月 日

弘前大学グリーンカレッジ(第一期生)

氏 名 _____ (自筆)

平成27年度[後期]

弘前大学グリーンカレッジ

開放科目概要 (シラバス)



〈弘前大学グリーンカレッジ〉 開放科目一覧の読み方

- 「授業曜日・時限」欄の「金 3・4」とは、金曜日の3・4時限を示します。なお、授業時間は次のとおりとなっています。

時 限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時 間	8:40 ～ 10:10	10:20 ～ 11:50	12:40 ～ 14:10	14:20 ～ 15:50	16:00 ～ 17:30

- 難易度は、授業の内容に応じて次の三段階に区分しています。
授業科目により若干異なりますので、詳しくは授業担当教員にお尋ねください。
- 【A】：入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの
（大学1年次対象の授業）
- 【B】：より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの
（大学2～3年次対象の授業）
- 【C】：高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの
（大学3～4年次対象の授業）
- 受講場所は表中に記載してあります。事前に講義室をご確認ください。
- なお、受講者数等の関係で講義室が変更になることがあります。教員の指示や変更の掲示にご注意ください。

平成27年度【後期】 弘前大学グリーンカレッジ 開放科目

科目 番号	カテゴリー	科 目 名	区分 注1	開講 年・ 学期	曜 日	時 限	難 易 度	受入可能 人数	内容・キーワード	担当教員		掲載 ページ
1	「人文知」 へのアプローチ	言語学の基礎④	21C	1年	木	7・8	A	若干名	歴史的な観点で国語学史を学ぶ	教育学部	平井吾門	S 1
2		日本考古学(A)	専	1年	水	5・6	A	10	縄文文化とその社会の多様性	人文学部	上條信彦	S 2
3		民俗学A	専	1年	月	9・10	A	3	民俗学の術語の説明と研究史／祭り・異人・憑きもの	人文学部	山田巖子	S 3
4	経済とビジネス	社会と経済(B)	21C	1年	火	3・4	A	若干名	日本の農業(りんご産業を中心に)	人文学部	黄孝春	S 4
5		企業と経営(A)	21C	1年	火	3・4	A	若干名	地場企業の経営と地域ブランド	地域社会研究科	佐々木純一郎	S 5
6		グローバル経営 I	専	2年	木	3・4	B	特になし	日本企業の海外進出／グローバル企業の組織・マーケティング／事例研究	人文学部	森樹男	S 6
7	からだ・健康	人を育む営み(J)	21C	1年	木	3・4	A	10	女性としての「身体」機能／母子保健	教育学部	葛西敦子	S 7
8		運動と健康	専	1年	月	1・2	A	若干名	運動と健康管理／子供・青少年の健康と運動／肥満と運動	教育学部	戸塚学	S 8
9		救急・災害医学	専	4年	木	3・4	B	5	救急医学の歴史と救急医療体制を学ぶ	医学科	山村仁 他	S 9
10	「農」を考える	環境と資源(D)	21C	1年	木	3・4	A	若干名	農耕と作物／イネ・畑作物・野菜栽培	農学生命科学部	石川隆二 他	S 10
11		農業気象学	専	1年	水	5・6	B	若干名	気象要素と気象観測／農地と気象環境／農地気象災害	農学生命科学部	伊藤大雄	S 11
12		地域計画学 I	専	2年	月	7・8	B	若干名	農村計画／農村文化／海外の農村と農村計画／住民参加	農学生命科学部	藤崎浩幸	S 12
13	artを体感する	くらし・歴史・文化(G)	21C	1年	火	5・6	A	若干名	世界の音楽／音楽人類学	国際教育センター	諏訪淳一郎	S 13
14		美術実技(C) (立体デザイン)	21C	1年	木	9・10	A	若干名	パッケージ	教育学部	石川善朗	S 14
15		美術実技(E) (彫刻)	21C	1年	木	9・10	A	若干名	石彫(滑石などを使用)の制作	教育学部	塚本悦雄	S 14
16		芸術表現演習日本画Ⅱ	専	2年	水	5・6	B	1～2	小動物を描く	教育学部	蝦名敦子	S 15
17		工芸(陶芸)	専	2年	月	3・4	B	若干名	陶器制作	教育学部	石川善朗	S 16
18		デザインⅡ	専	3年	月	9・10	B	10	2次元CGの基礎・技術／デザインと作品制作(実習)	教育学部	石川善朗	S 17
19		絵画Ⅱ・ [芸術表現演習洋画Ⅳ]	専	2・3年	木	7・8	B	1～2	クロッキー、絵画制作	教育学部	岩井康頼	S 18
20		美術史Ⅱ	専	3年	月	5・6	B	若干名	イタリア・ルネサンスの美術	教育学部	出佳奈子	S 19
21	教育:人を育む	彫刻Ⅱ・ [芸術表現演習Ⅳ]	専	3年	木	5・6	B	若干名	木彫の制作	教育学部	塚本悦雄	S 20
22		人を育む営み(K)	21C	1年	火	3・4	A	若干名	青少年問題／青少年と学校・仕事	教育学部	高瀬雅弘	S 21
23		化学の基礎Ⅱ(B)②	21C	1年	火	9・10	A	若干名	自然系基礎。有機化学／有機化合物の構造と合成	理工学部	伊東俊司	S 22
24		化学の基礎Ⅱ(B)③	21C	1年	火	9・10	A	10	自然系基礎。有機化学／有機化合物の構造と合成	農学生命科学部	高田晃	S 23
25		地学の基礎Ⅰ(B)	21C	1年	木	9・10	A	若干名	自然系基礎。地球／火山・地震／大気・気象／太陽系・宇宙	理工学部	根本直樹	S 24
26		地球環境学概論Ⅱ	専	1年	月	9・10	A	若干名	地球の活動／地殻の形成と進化／地球の大気・水圏	理工学部	片岡俊一 他	S 25
27		環境と社会(A)	21C	1年	木	3・4	A	10	都市環境／地方都市と都市政策／都市文化	教育学部	北原啓司 他	S 26
28		雪国活性化論	専	2年	月	5・6	B	若干名	雪国の活性化／雪国ならではのまちづくり／雪国学	教育学部	長南幸安 他	S 27
29	コミュニティ・デザイン	自然地理学Ⅰ	専	2年	月	1・2	B	若干名	身近にある地形／日本の地形配列／東北地方の地形の特徴	教育学部	小岩直人	S 28

【注1】21C――21世紀教育科目

専 ―――専門教育科目

平成27年度(2015年度)授業日程

前期（網かけ期日は授業日）								後期（網かけ期日は授業日）									
	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
27年				1	2	3	4	7日 入学式 6日～9日 ガイダンス・履修相談	10月					1	2	3	1日 秋季入学式 後期授業開始日
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18	10日 前期授業開始日		11	12	13	14	15	16	17	15日 月曜日の授業日 16午後～18日 総合文化祭 16・19日 全日休講日
	19	20	21	22	23	24	25	(4月中旬～6月下旬 定期健康診断)		18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	
5月						1	2	1日 水曜日の授業日	11月								
	3	4	5	6	7	8	9			1	2	3	4	5	6	7	
	10	11	12	13	14	15	16			8	9	10	11	12	13	14	
	17	18	19	20	21	22	23			15	16	17	18	19	20	21	
	24	25	26	27	28	29	30			22	23	24	25	26	27	28	
	31							31日 開学記念日		29	30						
6月		1	2	3	4	5	6		12月			1	2	3	4	5	25日 冬季休業前授業最終日
	7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19	20			13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30							27	28	29	30	31			
7月				1	2	3	4	※7月中の11・12時限は補講期間。原則、1～14日を専門科目、15日～29日を21世紀教育科目。	28年 1月						1	2	※1月中の11・12時限は補講期間。原則、5～18日を専門科目、19日～29日を21世紀教育科目。 5日 冬季休業後授業再開日 7日 月曜日の授業日 15日 全日休講日 16日～17日 大学入試センター試験
	5	6	7	8	9	10	11			3	4	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	17	18			10	11	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	24	25			17	18	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29	30	
										31							
8月							1	6日 月曜日の授業日 前期授業・試験終了日	2月								9日 後期授業・試験終了日 25～26日 個別学力検査(前期日程)
	2	3	4	5	6	7	8				1	2	3	4	5	6	
	9	10	11	12	13	14	15			7	8	9	10	11	12	13	
	16	17	18	19	20	21	22			14	15	16	17	18	19	20	
	23	24	25	26	27	28	29			21	22	23	24	25	26	27	
	30	31								28	29						
9月			1	2	3	4	5		3月			1	2	3	4	5	12日 個別学力検査(後期日程) 23日 学位記授与式
	6	7	8	9	10	11	12			6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19			13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26			20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30						30日 秋季学位記授与式	27	28	29	30	31		
計	—	15	16	15	17	17	—	※○→国民の休日，振替休日	計	—	13	17	16	18	16	—	※○→国民の休日，振替休日

授業実施日の曜日振替調整後

	月	火	水	木	金
前期	16	16	16	16	16

前期 80

	月	火	水	木	金
後期	16	16	16	16	16

後期 80

※定期健康診断に伴い休講を措置した場合、7月・1月の補講期間に授業の実施を考慮するものとする。

※7月、1月の補講期間に関わらず、担当教員が学生と調整の上、適宜補講を実施するものとする。

科目名		言語学の基礎④		科目 番号	1
カテゴリー	「人文知」へのアプローチ	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 7・8時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名		
担当教員	平井 吾門	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	amon@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日13～14時 予約不要		
【授業としての具体的到達目標】 ○国語研究の歴史的概要について、重要人物・重要資料を中心として説明出来るようになること。 ○一般的な言語学と、伝統的な国語学の共通点や相違点について概観出来るようになること。 ○学史を学ぶ意義について考察できるようになること。					
【授業の概要】 言語学の意義について、特に国語研究の歴史的な観点を通じて学んでいきます。すなわち、学問分野としては「国語学史」を学ぶこととなります。「国語とは何であるのか」ということを探究するのが国語学であり、「国語学がどのように行われてきたのか」ということを追究するのが国語学史の研究です。国語学史を学ぶことにより、現代言語学の「新しさ」や「伝統性」を体感するとともに、現代では忘れられつつある日本独特の文化、研究手法、そして価値観に思いを馳せ、現代科学との再融合の可能性を探ります。 具体的には、日本人が国語を表記するようになった時期、すなわち漢字流入以降の歴史において、国語がどのように学問の対象となり、その学問がどのような系譜を形作っていったのか、テーマごとに時代を追って理解することを目指します。時間の都合上、上代から江戸時代までを範囲として学びますので、近代以降の学史については必要に応じて触れる程度となり、本講義において学修の中心にはなりません。					
【授業の内容予定】 概ね次のような流れで行いますが、出席者の学習状況により、日本語学・日本語史の基礎についても触れることがあります。なお、教科書の順番とは前後することが多々あります。 第1回 ガイダンス (言語学・国語学・国語学史を学ぶ意義) 第2回 古語拾遺・釈日本紀 第3回 漢字研究史 第4回 漢字音研究史 第5回 悉曇学史 第6回 音韻研究史 第7回 訓点資料 第8回 中間試験 第9回 仮名遣い研究史 第10回 文法研究(本居宣長以前) 第11回 文法研究(本居宣長以後) 第12回 語義・語源研究 第13回 辞書史 第14回 方言研究史 第15回 近代国語学史 第16回 期末試験					
【準備学習(予習・復習)等の内容】 ○毎回、教科書における次回該当部分を示しますので、予習として読んでおいてください。 ○細かい年代は問いませんが、最低限「奈良時代以前・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代」といった括りで各事項を把握できるように復習してください。 ○また、初めて耳にする単語・人名もあると思いますが、教科書の暗記ではなく、意味や意義を理解し、自分の言葉で説明できるように努めてください。 ○試験では、教科書以外の文献を用いた穴埋め問題など、暗記ではなく本質的な理解度を評価することになります。 ○出席者の状況に応じて、国語史の知識を適宜補足しますが、高等学校レベルの日本史の知識は前提として話を進めますので、必要があれば高校の歴史の教科書などを復習しておいてください。					
【教材・教科書】 馬淵和夫・出雲朝子『国語学史 新装版』(笠間書院)					
【参考文献】 教科書記載のものが役立ちますが、状況に応じて授業中に指示します。					
【授業形式・形態及び授業方法】 日本語ネイティブ向けの講義ですが、留学生の受講も歓迎します。ただし、「平安時代と室町時代と江戸時代の前後関係」といった基礎知識は前提のもとに話が進みますので、高校レベルの日本史を学ばれていない方はご注意ください。また言語学の前提知識は特に求めませんが、「国語学」についての概説書の類に目を通すことで、理解度が増すはずで、最低限の補足はしますが、自学自習が求められます。					
【留意点・予備知識】					

科目名		日本考古学（A）		科目 番号	2
カテゴリー	「人文知」へのアプローチ	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 水曜日 5・6時限	難易度・受入可能数	【A】 10名		
担当教員	上條 信彦	所属学部	人文学部		
Eメールアドレス		オフィスアワー	火曜日午前中， 木曜日AM9：00～17：00		
【授業としての具体的到達目標】 縄文文化とその社会の多様性について理解する。					
【授業の概要】 生業（衣食住）および社会に関わる分野を中心に，研究の学史的整理と課題，現在の研究成果について述べる。特に三内丸山遺跡をはじめとする青函圏の縄文遺跡の特質について論じる。授業は，縄文時代の範囲を中心に，自然科学分析の成果をふまえながら論じる。					
【授業の内容予定】 ① ガイダンス ② 考古学の研究法 （1）資料の種類と特徴について ③ " （2）編年研究と生業研究，その有効性と限界 ④ 自然環境の変遷と縄文時代の始まり ⑤ 縄文時代の食料獲得戦略 （1）食料採集活動1 ⑥ " （1）食料採集活動2 ⑦ " （2）狩猟活動 ⑧ " （3）漁労活動 ⑨ 狩猟採集社会をとりまく課題 （1）縄文人の一生・1 ⑩⑪ " （2）縄文人の一生・2 ⑫ " （3）縄文人の集落 ⑬ " （4）縄文人の交流と流通 ⑭ 農耕文化の拡散と受容 （1）中国から朝鮮半島そして日本列島へ －その段階性と年代的問題－ ⑮ " （2）農耕文化の日本列島での受容 －縄文時代の終末から弥生時代へ－，および試験					
【準備学習(予習・復習)等の内容】 毎回資料を配付します。必ず目を通してください。					
【教材・教科書】雑誌 朝日新聞出版「新発見 日本の歴史1」（第1回目の講義で説明します）。 毎回プリントを配布します。					
【参考文献】					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式が中心。プロジェクターを使いつつ，できるだけ実物資料も利用します。亀ヶ岡文化研究センターの展示室も利用します。					
【留意点・予備知識】 考古学に触れる（感じる）機会を大切にしたい。したがって，見学資料や地域に関する話題（マスコミなど）について，事あるごとに内容や意見などを求めることがあるので，関心を持って情報を得ておきたい。 縄文検定・考古検定などを受験したい人はお勧めする。					

科目名		民俗学 A		科目 番号	3
カテゴリー	「人文知」へのアプローチ	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 月曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【A】 3名		
担当教員	山田 巖子	所属学部	人文学部		
Eメールアドレス	itsuko@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日12時～13時		
【授業としての具体的到達目標】 民俗学の術語（学術用語）について，基本的な概念を理解し，どのような具体的な事実からその術語が立ち上がってきたのか，研究の歴史を学びます。また，民俗学的な問題を日常の中から立ち上げられるように関心を養います。					
【授業の概要】 具体的な事例を検討しながら，民俗学の術語が立ち上がってきた経緯を学びます。また，術語と術語のつながり，相違についても学びます。					
【授業の内容予定】 はじめに 民俗学の歴史 民俗 近代化と身体技法＊ 神と仏 よりしろ 祭り 異人 憑きもの 稲・米 世相 まとめ ＊は弘前藩に伝わった古武術ト傳流の伝承者であり，民俗学者でもある小山隆秀氏をお招きしてお話をうかがいます。					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 講義中に示す参考文献のうち関心のあるものを選んで読んで下さい。また，自身の出身地や居住地の生活文化に関心を持ち，調べて下さい。					
【教材・教科書】 レジュメを用意します。					
【参考文献】 単元ごとに参考文献を示します。弘前大学図書館，弘前市立図書館，青森県立図書館などを駆使して下さい。					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式。なるべく写真や映像を見せます。					
【留意点・予備知識】					

科目名		社会と経済（B）		科目 番号	4
カテゴリー	経済とビジネス	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 火曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名		
担当教員	黄 孝春	所属学部	人文学部		
Eメールアドレス	huang@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日 12時～13時		
【授業としての具体的到達目標】 日本農業は保護産業のシンボルとして語られています。FTA交渉に際していつも高い関税率を適用し、自由化の対象から除外してきました。一方，外国で日本食ブームなどにみられるように日本の農産物に対する関心が高いのです。農業は果たして成長産業になりうるのか，農村は持続可能な社会になりうるのか，農民は魅力的な職業となりうるのか。この講義は，以上の疑問を解くための視点，素材および考え方を提供することを目標にします。					
【授業の概要】 青森県のりんご産業を事例に日本の農業，農村と農民について考察します。具体的にはりんご産業の歴史，世界りんご産業との比較を踏まえ，品種開発から，育苗，栽培，流通，加工およびその他の関連産業について深く考察します。また農業の活性化の条件と課題について受講生と一緒に考えてみたいと思います。					
【授業の内容予定】 第1部 世界のりんごと日本のりんご 第2部 りんご産業の歴史 第3部 品種開発 第4部 栽培 第5部 流通 第6部 輸出と加工 第7部 サポートイング 第8部 まとめ					
【準備学習(予習・復習)等の内容】					
【教材・教科書】 黄孝春・平本和博『りんごをアップルとは呼ばせない』弘前大学出版会，2015年。					
【参考文献】					
【授業形式・形態及び授業方法】 基本的には講義形式で行いますが，DVDなどの映像資料も使う予定です。					
【留意点・予備知識】 異なる品種のりんごを食べ比べてください。					

科目名		企業と経営（A）		科目 番号	5																																				
カテゴリー	経済とビジネス	区分	21C教育科目																																						
学期・曜日・時限	後期 火曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名																																						
担当教員	佐々木 純一郎	所属学部	地域社会研究科																																						
Eメールアドレス	sasajun@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	月曜日～金曜日，9時から9時10分 までにおいでください																																						
【授業としての具体的到達目標】 (1) 地域ブランドの視点から，地域の企業と経営を理解できるようになること。 (2) 地域の一員として，地域の企業と経営を理解できるようになること。 (3) ケース・スタディの方法を理解できるようになること。																																									
【授業の概要】 近年の少子化・高齢化にともなう人口減少＝市場の縮小は，青森県の地場企業に厳しい状況をもたらしています。 そこで，主に青森県の地場企業の経営を，企業だけではなく，地域の自治体や住民との連携を視野に入れて検討します。具体的には，地域自体の魅力を高める地域ブランドの手法などを学びます。 また授業のうち一回は，担当教員が参与している『青森県社会経済白書』の内容を題材として，青森県庁の担当職員と議論する予定です。 この機会を活用して，受講生の皆さんが地域の一員として，企業や自治体等の連携について実践的に学ぶことを期待します。																																									
【授業の内容予定】 以下は過年度の実績です。変更もありえます。 <table><tr><td>第1回</td><td>イントロダクション</td><td>第10回</td><td>教科書以外のケース・スタディ</td></tr><tr><td>第2回</td><td>企業とは何か，経営学とは何か</td><td>第11回</td><td>ブランド形成における付加価値</td></tr><tr><td>第3回</td><td>地域ブランドの議論の背景</td><td>第12回</td><td>地域ブランド形成のプロセス</td></tr><tr><td>第4回</td><td>教科書以外のケース・スタディ</td><td>第13回</td><td>教科書以外のケース・スタディ</td></tr><tr><td>第5回</td><td>農産物ブランドの持続的発展</td><td>第14回</td><td>食とグルメのブランド化</td></tr><tr><td>第6回</td><td>方法論と教科書以外のケース・スタディ</td><td>第15回</td><td>北東北三県の地域ブランドと新幹線効果</td></tr><tr><td>第7回</td><td>地域が支える観光地ブランド</td><td>第16回</td><td>期末試験</td></tr><tr><td>第8回</td><td>定義と地域ブランドづくり</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第9回</td><td>中間試験</td><td></td><td></td></tr></table> * なお，授業のうち一回は，青森県庁の職員から『青森県社会経済白書』の内容についてご紹介いただく予定です。						第1回	イントロダクション	第10回	教科書以外のケース・スタディ	第2回	企業とは何か，経営学とは何か	第11回	ブランド形成における付加価値	第3回	地域ブランドの議論の背景	第12回	地域ブランド形成のプロセス	第4回	教科書以外のケース・スタディ	第13回	教科書以外のケース・スタディ	第5回	農産物ブランドの持続的発展	第14回	食とグルメのブランド化	第6回	方法論と教科書以外のケース・スタディ	第15回	北東北三県の地域ブランドと新幹線効果	第7回	地域が支える観光地ブランド	第16回	期末試験	第8回	定義と地域ブランドづくり			第9回	中間試験		
第1回	イントロダクション	第10回	教科書以外のケース・スタディ																																						
第2回	企業とは何か，経営学とは何か	第11回	ブランド形成における付加価値																																						
第3回	地域ブランドの議論の背景	第12回	地域ブランド形成のプロセス																																						
第4回	教科書以外のケース・スタディ	第13回	教科書以外のケース・スタディ																																						
第5回	農産物ブランドの持続的発展	第14回	食とグルメのブランド化																																						
第6回	方法論と教科書以外のケース・スタディ	第15回	北東北三県の地域ブランドと新幹線効果																																						
第7回	地域が支える観光地ブランド	第16回	期末試験																																						
第8回	定義と地域ブランドづくり																																								
第9回	中間試験																																								
【準備学習(予習・復習)等の内容】 教科書を中心として予習する他に，自分のお気に入りの地域ブランドについて，日頃から情報収集しておくとう良いでしょう。																																									
【教材・教科書】 佐々木純一郎編著（2013） 『地域経営の課題解決－震災復興，地域ブランドそして地域産業連関表』同友館																																									
【参考文献】 授業で紹介します。																																									
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式ですが，受講生のみなさんの主体的な授業となるよう，毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。																																									
【留意点・予備知識】 予備知識は問われませんが，「経営学の基礎」などの関連する授業を同時並行して受講なさると学習効果を高められます。経営学の用語は日常的に用いられているものが多いので「理解できている」と思い込みがちです。しかしながら，経営学も学問である以上，厳密な定義や論理が必要とされます。その点に留意なさるとよいと思います。																																									

			科目 番号	6																																													
科目名	グローバル経営Ⅰ																																																
カテゴリー	経済とビジネス	区分	専門教育科目																																														
学期・曜日・時限	後期 木曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【B】 特になし																																														
担当教員	森 樹男	所属学部	人文学部																																														
Eメールアドレス	mori@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日12：00～14：00																																														
【授業としての具体的到達目標】 グローバルな時代の企業経営を考える際に必要な基本的な知識や考え方を身につけること。																																																	
【授業の概要】 グローバルな時代の企業経営は複雑で、さまざまなことを考えなければなりません。世界の市場を相手にするということは世界中の企業との競争を考えなければなりません。また、国境を越えてビジネスをおこなうということは、各国の法律、文化、社会的な価値などとの遭遇も免れません。このようにグローバルな企業経営を理解するにはさまざまな視点が必要です。そこでこの講義ではグローバル企業の経営を理解し、多文化組織で働くために必要な知識や考え方を学びます。 またグローバル経営の考え方は、青森県のような地方でも必要になってきています。地方の企業が海外進出を行う、あるいは地方の企業が外資に買収されることが珍しくなくなっています。講義では、グローバル経営を青森県のような地域においても、身近なものとして捉えられるように地域企業の事例も取り上げていきます。																																																	
【授業の内容予定】 <table><tr><td>第1回</td><td>イントロダクション</td><td>第10回</td><td colspan="2">欧米系多国籍企業の組織発展モデル</td></tr><tr><td>第2回</td><td>グローバルとは</td><td>第11回</td><td colspan="2">日本のグローバル企業の組織</td></tr><tr><td>第3回</td><td>経営学の視点からみる「グローバル」とは</td><td>第12回</td><td colspan="2">グローバル企業のマーケティング</td></tr><tr><td>第4回</td><td>日本企業の海外進出：初期段階</td><td>第13回</td><td colspan="2">グローバル企業の海外生産</td></tr><tr><td>第5回</td><td>日本企業の海外進出：キッコーマンの事例</td><td>第14回</td><td colspan="2">事例研究：外資に買収された日本企業</td></tr><tr><td>第6回</td><td>日本企業の海外進出：本格段階</td><td>第15回</td><td colspan="2">予備日</td></tr><tr><td>第7回</td><td>理論の歩み1 ～ハイマーの理論とPCモデル～</td><td>第16回</td><td colspan="2">期末試験</td></tr><tr><td>第8回</td><td>理論の歩み2 ～内部化理論と折衷パラダイム～</td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>第9回</td><td>グローバル企業の経営戦略</td><td></td><td colspan="2"></td></tr></table>					第1回	イントロダクション	第10回	欧米系多国籍企業の組織発展モデル		第2回	グローバルとは	第11回	日本のグローバル企業の組織		第3回	経営学の視点からみる「グローバル」とは	第12回	グローバル企業のマーケティング		第4回	日本企業の海外進出：初期段階	第13回	グローバル企業の海外生産		第5回	日本企業の海外進出：キッコーマンの事例	第14回	事例研究：外資に買収された日本企業		第6回	日本企業の海外進出：本格段階	第15回	予備日		第7回	理論の歩み1 ～ハイマーの理論とPCモデル～	第16回	期末試験		第8回	理論の歩み2 ～内部化理論と折衷パラダイム～				第9回	グローバル企業の経営戦略			
第1回	イントロダクション	第10回	欧米系多国籍企業の組織発展モデル																																														
第2回	グローバルとは	第11回	日本のグローバル企業の組織																																														
第3回	経営学の視点からみる「グローバル」とは	第12回	グローバル企業のマーケティング																																														
第4回	日本企業の海外進出：初期段階	第13回	グローバル企業の海外生産																																														
第5回	日本企業の海外進出：キッコーマンの事例	第14回	事例研究：外資に買収された日本企業																																														
第6回	日本企業の海外進出：本格段階	第15回	予備日																																														
第7回	理論の歩み1 ～ハイマーの理論とPCモデル～	第16回	期末試験																																														
第8回	理論の歩み2 ～内部化理論と折衷パラダイム～																																																
第9回	グローバル企業の経営戦略																																																
【準備学習(予習・復習)等の内容】 普段より、新聞や書物を読み、知識を増やすことを心がけてください。また、テレビの情報番組などを活用し、グローバル企業の現状について理解するようつとめてください。																																																	
【教材・教科書】 安室憲一編『新グローバル経営論』（白桃書房）																																																	
【参考文献】 森樹男『日本企業の地域戦略と組織』（文眞堂） 五味・安田編著『国際経営論の基礎』（文眞堂） 安室憲一編著『ケースブック ビジネスモデル・シンキング』（文眞堂） 吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏編 『ケースに学ぶ国際経営』（有斐閣ブックス）																																																	
【授業形式・形態及び授業方法】 講義の内容をまとめた資料を使いながらおこなう講義です。また、必要に応じてDVD教材なども使用します。 さらに、授業では、グループワーク、ペアワークなどを行い、お互いに意見を発表するなど、双方向授業となります。																																																	
【留意点・予備知識】 履修モデル：経営学・会計学、国際論、経済学																																																	

科目名		人を育む営み（J）		科目 番号	7
カテゴリー	からだ・健康	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【A】 制限なし		
担当教員	葛西 敦子	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	atsukoka@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	火曜日 7・8時限目		
【授業としての具体的到達目標】 （１）女性の解剖学的・生理学的特徴を学習し、自身のからだについて理解します。 （２）将来、子供を産み育てるための妊娠・分娩・産褥について理解します。 （３）母子保健の関係法規を学び、社会資源を活用できるような知識を身につけます。					
【授業の概要】 今までの小学校・中学校・高等学校の学校教育の中で、「女性のからだ・性機能」「男性のからだ・性機能」については、教科（保健）の授業の中で、様々な学んできました。小学校では「思春期の身体の変化」、中学校では「性機能の成熟」、高等学校では「男女のからだの成長」などが取り上げられていました。しかし、その知識の習得は十分とは言えない状況が見受けられます。たとえば、望まない妊娠、その結果としての人工妊娠中絶、十代の出産などがあります。また今日では、卵子の老化も問題となっています。妊娠・出産を担う女性は、男性に比べて多くのリスクをかかえています。その背景には、女性が自身のからだ、つまり女性としての解剖学的・生理学的特徴の知識不足があげられます。また、男性が、女性の心や体についての理解の不足もあります。 本講義では、「女性としての身体の機能を知る」ことを中心に学習します。そして、社会資源を活用し、生涯にわたり女性として身体的・精神的・社会的に健康に過ごすことができるような知識を身につけます。					
【授業の内容予定】 1. ガイダンス 2. 女性の解剖学的特徴 3. 基礎体温の測定の意義と方法， 女性の生理学的特徴 4. 生命誕生 5. 妊娠の成立 6. 避妊法 7. 基礎体温測定値の分析（1ヶ月分）， 不妊症 8. 卵子の老化 9. 人工妊娠中絶・性感染症 10. 妊娠期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴（1） 11. 妊娠期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴（2） 12. 分娩の解剖学的特徴や生理学的特徴 13. 産褥期間中の解剖学的特徴や生理学的特徴 14. 加齢による性機能の変化 15. 基礎体温測定値の分析（3ヶ月分） 16. 総括・試験					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 （１）授業計画に示した内容に関連したことを事前に予習し講義に臨んでください。 （２）講義内容に応じて、事前の課題をだします。					
【教材・教科書】 女子学生は、基礎体温測定のため、基礎体温計を準備してもらいます。（生協でも販売しています）資料は配付します。					
【参考文献】 適宜、参考図書や文献を紹介します。					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義，演習，DVD視聴					
【留意点・予備知識】 女子学生：毎日朝に、目を覚ました時に基礎体温の測定をしてもらいます。しかし、忘れる時もあるかもしれませんが、測定できないことがあるかもしれません。とにかく継続して測定して下さい。					

		科目番号	8
科目名	運動と健康		
カテゴリー	からだ・健康	区分	専門教育科目
学期・曜日・時限	後期 月曜日 1・2時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名
担当教員	戸塚 学	所属学部	教育学部
Eメールアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	月曜日3コマ目
【授業としての具体的到達目標】 運動の実施と健康管理，子供の健康と運動，青年の健康と運動，疾病・障害を有する者の健康と運動等についての基礎知識を身につけることです。			
【授業の概要】 運動習慣の確立を通じた健康づくりについて，社会体育指導者の講習科目内容である運動の実施と健康管理，子供の健康と運動，青年の健康と運動，疾病・障害を有する者と運動等について学習します。なお，授業では青森県の健康に関する様々なデータをもとにその課題についても言及します。			
【授業の内容予定】 第 1 回 青森県の青少年の健康と運動（総論） 第 2 回 青少年の発育発達の特徴とその解釈 第 3 回 青少年のトレーニング理論（神経系） 第 4 回 青少年のトレーニング理論（筋肉系） 第 5 回 青少年のトレーニング理論（呼吸・循環系） 第 6 回 青少年のスポーツ障害 第 7 回 青少年期の運動と健康（総括）および中間試験 第 8 回 青森県の青年・中高年者の健康と運動（総論） 第 9 回 加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング 第 10 回 肥満と運動 第 11 回 運動と生活習慣病 第 12 回 女性の体力・運動能力に特徴とトレーニング 第 13 回 運動と休養 第 14 回 運動ガイドラインの理論と実際 第 15 回 健康と運動に関わる諸問題 第 16 回 期末試験			
【準備学習（予習・復習）等の内容】 予習は特に必要としませんが，復習は必ず行い，授業時に得た知識を整理してください。それが次の授業への予習にもなります。			
【教材・教科書】 授業時に資料を配付します。			
【参考文献】 これからの健康とスポーツの科学（講談社） 生活習慣病の予防と運動（南江堂） いずれも研究室にて閲覧可能です。			
【授業形式・形態及び授業方法】 スライドを活用した講義形式の授業です。			
【留意点・予備知識】			

科目名		救急・災害医学		科目 番号	9
カテゴリー	からだ・健康	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【B】 5名		
担当教員	山村 仁 他	所属学部	医学部医学科		
オフィスアワー	講座受付（39-5375）に事前予約をして下さい。受付時間 10：00～17：00				
【授業の概要】 日本における救急医学の歴史と救急医療体制について理解する。救急が扱う外傷，ショック，敗血症，中毒，熱傷などの病態と診断法について講義を行う。 また，災害医学の分類と災害医療体制について講義を行い，シミュレーション実習を行う被ばく傷病者に対応するための緊急被ばく医療についての講義を行う。					
【授業としての具体的到達目標・授業の内容予定】 9月3日(木)『題目：救急・災害総論』 具体的到達目標：救急医療の歴史と救急医学が扱う疾患を理解する。また，災害の分類について理解し，日本の災害医療体制がどのように整備されてきたかを学ぶ。 9月10日(木)『題目：心肺蘇生法とそのエビデンス』 具体的到達目標：2010年ガイドラインに準じた心肺蘇生法を習得するとともに，ガイドラインに至ったエビデンスを理解する。 9月17日(木)『題目：外傷総論・各論』 具体的到達目標：外傷の分類，重症度評価を理解する。主な外傷として，胸部ならびに腹部外傷の成因，病態，症状，診断，治療を理解する。 9月24日(木) 『題目：熱傷』 具体的到達目標：熱傷の病態と診断を理解する。気道熱傷，化学熱傷，電撃傷の病態と診断について理解する。 10月1日(木) 『題目：ショック，敗血症，多臓器不全』 具体的到達目標：ショックの分類とその治療法を理解する。敗血症と多臓器不全の病態と診断基準を学ぶ。 10月8日(木) 『題目：意識障害・環境による障害』 具体的到達目標：意識障害の鑑別診断と治療法を理解する。熱中症や低体温症といった環境要因による代表的疾患の病態，治療を理解する。 10月22日(木) 休講 10月29日(木) 『題目：災害医療・トリアージ・多数傷病者対応実習』 具体的到達目標：実際にスタート法でトリアージできるようになる。弘前市で多数傷病者が発生し，弘前大学医学部附属病院は100名程度の患者の受け入れを行いながら，三次救急の対応も担わなくてはならない。机上シュミレーションで多数傷病者対応を学ぶ。 11月5日(木) 『題目：中毒』 具体的到達目標：薬剤，化学物質，自然毒などの急性中毒に対する「全身管理」「吸収阻害」「排泄促進」「解毒・拮抗剤」の原則を理解し，代表的な中毒の対応を理解する。 11月12日(木) 『題目：緊急被ばく医療』 具体的到達目標：緊急被ばく医療の基本的知識を理解し，東日本大震災で行われた対応を学ぶ。 10月29日（木）の講義について 1・2限目（臨床大講義室）『題目：災害医学の基礎とシュミレーション』 到達目標：災害時のトリアージ法を理解する。 3・4限目（病院診療棟5階大会議室）『題目：災害医学の基礎とシュミレーション』 到達目標：机上シュミレーションで多数傷病者対応を学ぶ					
【準備学習(予習・復習)等の内容】					
【教材・教科書】 標準救急医学 医学書院，外傷専門診療ガイドライン へるす出版					
【参考文献】 急性中毒ハンドブック 医学書院					
【授業形式・形態及び授業方法】 スライドを用いたプレゼンテーションとプリントを用いて説明する					
【留意点・予備知識】					

科目名			環境と資源（D）	科目番号	10
カテゴリー	「農」を考える		区分	21C教育科目	
学期・曜日・時限	後期 木曜日 3・4時限		難易度・受入可能数	【A】 若干名	
担当教員	石川 隆二 他		所属学部	農学生命科学部	
Eメールアドレス	ishikawa@hirosaki-u.ac.jp		オフィスアワー	月曜日16～17時 あとは各担当教員まで	
【授業としての具体的到達目標】 主要テーマは環境との兼ね合いで栽培される作物についてです。その作物がどのような環境で栽培されてきたか、今後持続可能な栽培のためにどのような技術や資源が必要であるかを理解する。					
【授業の概要】 農耕の起源から講義を始め、イネを中心とした作物資源について講義する。他の作物として、畑作物、園芸作物についての講義を行う。そして、それら作物が栽培される環境としての土壌環境について概要を講義する。					
【授業の内容予定】 1. 農耕起源と環境（石川隆二）8回担当 1）導入編： 作物と環境（図式、雨量、土壌、栄養、塩類・病虫害ストレス、栽培行為）、野生種の栽培化。 伝播による栽培地域の拡散（適地と非適地、生物学的対応、農学的適応と工学的適応） 食文化によりまもられた作物、異なる食文化の導入による混乱 2）環境に適応した農耕起源 3）栽培環境に適応した作物の起源 4）栽培化のプロセス 5）栽培化遺伝子 6）起源地外への再適応：拡散による起源地以外への再適応（生物学的対応、農学的適応と工学的適応：栽培技術、育種改良、施設・灌漑・土壌改良など） 例：プランテーション（バナナ、コーヒー、イネ、コムギ。そして資源のover-use、弊害） 7）イネの栽培革命：緑の革命と崩壊する稲作vs再生可能な水田稲作体系 8）野生種と遺伝子給源：起源地の情報をもとにした次世代に残せる遺伝子供給源の保護と利用 9）イネの多様性 10）イネ育種による環境適応型品種改良 ”＊作物を決めて、起源地とその環境、栽培地域の拡大とそれに伴う変異、今後の品種改良 イネを例にとり、起源地の環境、どのような変異が起こり、各地域で栽培されているかを議論、その他の作物種において調査して発表” 2. 畑作物と環境（松山信彦） 3回 9回目：栽培植物と畑作物の定義・起源・分類、いろんな畑作物（麦類、トウモロコシ、雑穀） 10回目：気象環境と作物生産、いろんな畑作物（ダイズ、イモ類、工芸作物） 11回目：温暖化と作物栽培、雑草と作物栽培 3. 野菜栽培と環境（前田智雄） 2回 12回目：野菜生産が環境に与える影響 13回目：環境負荷の少ない野菜生産、未利用資源を活用した野菜生産技術 4. 農業と環境との関わり（青山正和） 2回 14回目：土壌と環境 15回目：環境保全型農業					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 渡された資料に目を通して理解するようところがける。わからないことは質問する					
【教材・教科書】 教材・教科書：教科書は使用されません。資料は、各担当者より適宜配布されます。					
【参考文献】 参考文献：必読文献および推薦図書は、各担当者より適宜紹介されます。 また、参照すべきインターネット上のサイトがあれば、適宜授業中に紹介されます。					
【授業形式・形態及び授業方法】 4人の教員による講義形式。一部、発表形式を含む					

科目名		農業気象学		科目 番号	1 1
カテゴリー	「農」を考える	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 水曜日 5・6時限	難易度・受入可能数	【B】 若干名		
担当教員	伊藤 大雄	所属学部	農学生命科学部		
Eメールアドレス オフィスアワー	daiyu@hirosaki-u.ac.jp 月曜日11:00～12:00, 金曜日16:30～17:30 オフィスは藤崎町にあるので、予めメールで確認してからお越しください。				
【授業としての具体的到達目標】 気象現象、気象観測ならびに気候に関する一般的な知識を身につけます。 農地における気象環境の特徴や、その制御改変技術に関して、基本的な事項が理解できるようにします。 農業生産に重大な影響を及ぼしている地球規模の環境問題について、気象との関わりから理解できるようにします。					
【授業の概要】 農業生産は、温度、日射、降水などの気象資源を利用して営まれます。時にはビニールハウスや被覆資材を用いて、農地の気象環境が改変されることもあります。また、極端な高温、低温、強風、豪雨、小雨、降霜など、農業生産を阻害する気象現象を回避・克服する技術が考案されてきました。本講義では、農地における温度環境、日射環境、水環境や、これらに対する農作物の反応について、また、様々な農業気象災害について学びます。 近年、地球規模の環境問題が地域の農業生産にも重大な影響をおよぼしています。本講義では、これらのうち気象分野と関係が深い地球温暖化、砂漠化、酸性雨について、基本的な事項を学びます。 なお、高校で地学を学び気象の知識を身につける機会は、十分に与えられていないのが現実ですので、高校レベルの気象の基礎知識も含めて学習します。					
【授業の内容予定】 第1回 気象要素と気象観測（温度、日射量など） 第2回 気象要素と気象観測（リモートセンシングなど） 第3回 地球をめぐる大気と水の動き 第4回 日本および世界の気候と植生 第5回 農地の放射環境と温度環境 第6回 農地の水収支と蒸発散 第7回 農地の風環境と光合成・蒸発散量の測定 第8回 気象環境と作物群落の光合成 第9回 作物の気象に対する応答 第10回 農業における環境調節 第11回 地球環境問題（1）地球温暖化 第12回 地球環境問題（2）砂漠化、酸性雨 第13回 農業気象災害（1）冷害 第14回 農業気象災害（2）霜害、凍害、雪害 第15回 農業気象災害（3）台風害、干害、ひょう害 第16回 テスト					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 準教科書による予習は歓迎しますが、準教科書に沿った授業組み立てとはなっていないので、授業中に配布したプリントや講義ノートによる復習を特にお勧めします。テスト範囲はとても広いので、普段の学習が大切です。					
【教材・教科書】 「生物環境気象学」浦野慎一ほか著（文永堂出版 4200円）を準教科書とし、講義中に使用することがあります。講義内容の80％程度はこの準教科書で解説されています。					
【参考文献】 ①一般気象学（第2版）小倉義満著 東京大学出版会 2800円 理工学部の専門の講義で教科書として使用されています。 ②新農業気象・環境学 長野敏英・大政謙次編 朝倉書店 4600円 2009年までの準教科書です。 ③環境気候学 吉野正敏・福岡義隆編 東京大学出版会 4600円					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式 プリントを配布し、板書を併用して進めます。短時間ですがパワーポイントも使用します。					
【留意点・予備知識】 高校までの物理と化学と生物の知識があれば理解できるようにします。					

			科目 番号	1 2																				
科目名	地域計画学Ⅰ																							
カテゴリー	「農」を考える	区分	専門教育科目																					
学期・曜日・時限	後期 月曜日 7・8時限	難易度・受入可能数	【B】 若干名																					
担当教員	藤崎 浩幸	所属学部	農学生命科学部																					
Eメールアドレス	fusa@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	火曜11:40～13:10																					
【授業としての具体的到達目標】 1) 農村について理解すること。 2) 農村計画の制度や住民参加の地域づくりについて理解すること。 3) 圃場整備と農道について理解すること。 4) 農村生活環境整備について理解すること。 5) 農村の多面的機能とその整備について理解すること。 6) 農村と都市との交流について理解すること。 《農業土木コースにおける学習教育目標との関係》 (C) システム・計画技術の習得 (D) 地域に貢献できる能力の育成																								
【授業の概要】 地域計画は、特定の地域を対象とて、その地域の社会経済活動を通じて、地域住民にとって望ましいものとして合意した目標を達成するための枠組みを構築するものです。講義では、地域の生産・生活に関する諸整備と望ましい保安全管理のあり方とその手法について学びます。																								
【授業の内容予定】 <table><tr><td>1 ガイダンス、農村とは、都市と農村</td><td>8 農村実態調査報告会</td></tr><tr><td>2 生活圏と集落形態、農業地域類型、農村の特質</td><td>9 集落排水、営農飲雑用水、農村公園、集会施設など</td></tr><tr><td>3 農村実態調査の進め方の説明</td><td>10 6～7、9回の修習状況確認試験</td></tr><tr><td>農村計画とは</td><td>農村景観</td></tr><tr><td>4 農村政策の推移</td><td>11 農村生態系</td></tr><tr><td>住民参加と地域づくり</td><td>12 農村と都市の交流</td></tr><tr><td>5 1～4回の修習状況確認試験</td><td>13 農村文化、農村の維持管理</td></tr><tr><td>土地利用計画と法制度</td><td>14 10～13回の修習状況確認試験</td></tr><tr><td>6 圃場整備と土地利用</td><td>海外の農村と農村計画</td></tr><tr><td>7 農道と集落道</td><td>15 今後の農村の目指す方向</td></tr></table>					1 ガイダンス、農村とは、都市と農村	8 農村実態調査報告会	2 生活圏と集落形態、農業地域類型、農村の特質	9 集落排水、営農飲雑用水、農村公園、集会施設など	3 農村実態調査の進め方の説明	10 6～7、9回の修習状況確認試験	農村計画とは	農村景観	4 農村政策の推移	11 農村生態系	住民参加と地域づくり	12 農村と都市の交流	5 1～4回の修習状況確認試験	13 農村文化、農村の維持管理	土地利用計画と法制度	14 10～13回の修習状況確認試験	6 圃場整備と土地利用	海外の農村と農村計画	7 農道と集落道	15 今後の農村の目指す方向
1 ガイダンス、農村とは、都市と農村	8 農村実態調査報告会																							
2 生活圏と集落形態、農業地域類型、農村の特質	9 集落排水、営農飲雑用水、農村公園、集会施設など																							
3 農村実態調査の進め方の説明	10 6～7、9回の修習状況確認試験																							
農村計画とは	農村景観																							
4 農村政策の推移	11 農村生態系																							
住民参加と地域づくり	12 農村と都市の交流																							
5 1～4回の修習状況確認試験	13 農村文化、農村の維持管理																							
土地利用計画と法制度	14 10～13回の修習状況確認試験																							
6 圃場整備と土地利用	海外の農村と農村計画																							
7 農道と集落道	15 今後の農村の目指す方向																							
【準備学習(予習・復習)等の内容】 予習は宿題として指示された事項があれば行ってください。 復習は、宿題として指示された事項があれば、これを行うことに加え、授業を受けた夜に、授業中のメモを自分なりに再構築して講義ノートに整理してください。また、次の授業を受講する前、講義ノートを見ながら内容を振り返ってください。 復習の際、疑問や理解不足を感じた場合には、参考書を読んだり、オフィスアワーに質問したりしてください。																								
【教材・教科書】 特定の教科書は定めません。																								
【参考文献】 参考書は、講義の際適宜指示します。																								
【授業形式・形態及び授業方法】 ・基本的には、板書を主に、時折画像などを見せながら講義形式の授業を行う。 ・授業前半では、4人程度のグループに分かれ、最寄の農村の実態について調査した結果の報告会を行う。																								
【留意点・予備知識】 ・日常において新聞に目を通したりニュースを見るなどして、地域経済や社会に関する情報を収集する習慣を身につけることが肝要です。 ・環境基礎構造学を踏まえ、地域計画学IIや地域計画学演習につながり、山間地環境計画学Ⅰや保全生態学などにも関連する科目です。																								

科目名	くらし・歴史・文化（G）		科目 番号	13
カテゴリー	a r t を体感する	区分	21C教育科目	
学期・曜日・時限	後期 火曜日 5・6時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名	
担当教員	諏訪 淳一郎	所属学部	国際教育センター	
Eメールアドレス	suwa@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日5・6時限目	
【授業としての具体的到達目標】 音楽が人間の営みに果たしている役割について、世界各地の事例によって理解し、くらしの中で音楽体験を客観視するための視座を身につけます。「こんなのも音楽とっていいのか?！」という視野を広げます。				
【授業の概要】 教科書を購読して「音楽とは何か」という根源の問いに迫りつつ、視聴覚資料に基づいて幅広い音楽現象への理解を深めます。視聴覚資料では音楽を聞くための「耳」を養います。				
【授業の内容予定】 導入とまとめのほか、教科書『パフォーマンスの音楽人類学』を音源資料とともに読み解く部分（7回分）と、個別のテーマや事例に基づく部分（6回分）とに分かれます。				
【準備学習（予習・復習）等の内容】 予習：教科書を読んでくること。世界史や地理を理解してくること。 復習：最終課題に向けて、返却された質問票を反芻すること				
【教材・教科書】 『パフォーマンスの音楽人類学』（勁草書房 2012年）				
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。				
【授業形式・形態及び授業方法】 教科書の内容を踏まえ、音源をたくさん用いた講義のあと、最後の15分程度でその回の授業内容に即した質問票を提出します。				
【留意点・予備知識】 音楽に関する予備知識はなくても構いませんが、世界史と地理の知識は必要です。				

科目名		美術実技C（立体デザイン）		科目 番号	1 4
カテゴリー	a r t を体感する	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【A】若干名		
担当教員	石川 善朗	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	月～金の11:5012:40		
【授業内容】 デザイン開発の基礎としての立体（パッケージデザイン）に関する基礎について学びます。 制作した立体の表面デザインとしてイメージ色彩分析や色感嗜好及びマーケティング設計を体験し、座学と実学を織り交ぜながらデザイン感覚の捉え方を学習します。 【必要となる道具や、履修者に前もって求めるスキルなど】 必要となる道具は講義の初日に指示します。					

科目名	美術実技E（彫刻）			科目 番号	15
カテゴリー	a r t を体感する	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【A】若干名		
担当教員	塚本 悦雄	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス		オフィスアワー			
【授業内容】 柔らかい石（大理石など）を素材に彫刻を制作します。テーマは自由とします。立体作品におけるカービング技法を習得し、形の成り立ちや素材の特性を生かした表現方法を学びます。 【必要となる道具や、履修者に前もって求めるスキルなど】 必要となる用具はこちらで用意します。材料費1,000円が必要です。					

		科目 番号	16
科目名	芸術表現演習日本画Ⅱ		
カテゴリー	a r t を体感する	区分	専門教育科目
学期・曜日・時限	後期 水曜日 5・6時限	難易度・受入可能数	【B】 1～2名
担当教員	蝦名 敦子	所属学部	教育学部
Eメールアドレス	eatsuko@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	木曜日 (13:00～14:00)
【授業としての具体的到達目標】 日本画の画材を使って、小動物(剥製)をモチーフとした制作ができるようになることを目標とします。			
【授業の概要】 芸術表現演習日本画Ⅰに引き続き、スケッチや写生の充実と、制作を通して基礎・基本の充実を図ります。小動物(剥製)をモチーフとして、制作に取り組みます。			
【授業の内容予定】 1. オリエンテーション (日本画とは?) 2. モチーフ(剥製)の設定とスケッチ 3. 写生 4. 下図の完成 5. 道具・用具の使い方, パネルの準備 6. 紙貼りと地塗り 7. トレースと骨描き 8. 下塗りと描きおこし 9. 着彩(背景) 10. 着彩(大まかな色の重ね塗り) 11. 着彩(全体と部分) 12. 着彩(全体の見直し) 13. 着彩(細部) 14. 仕上げ 15. 講評会			
【準備学習(予習・復習)等の内容】 授業時間内で作業が間に合わない時は、空いている時間を利用して進めておいてください。			
【教材・教科書】 パネルは各自で準備してもらいます。			
【参考文献】 必要に応じて紹介します。			
【授業形式・形態及び授業方法】 実習, 演習形式			
【留意点・予備知識】 芸術表現演習日本画Ⅰを履修済みが望ましい。			

科目 番号	17
----------	----

科目名	工芸（陶芸）		
カテゴリー	a r t を体感する	区分	専門教育科目
学期・曜日・時限	後期 月曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【B】 若干名
担当教員	石川 善朗	所属学部	教育学部
Eメールアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	月～金の11:50～12:40
【授業としての具体的到達目標】 津軽地域の青森県認定の伝統的工芸品である「津軽焼」と、一般陶芸の基本技術から陶芸の制作に触れて、基本的な陶芸の技法を身につけることを目標とする。自分で粘土の成形から、焼成が完成するまでの工程を一通り出来ることまでを学ぶ。			
【授業の概要】 伝統工芸技術の一つ陶芸を取り上げる。特に地域の工芸である「津軽焼」に触れて、土に親しむことと基礎的な造型、及び釉薬や焼成について学ぶ。			
【授業の内容予定】 1回目：全体ガイダンス，必要工具，材料の解説 2回目：陶器について（講義） 3回目：アイデアスケッチ 4回目：作業説明と陶土の混練 5回目：陶土の成形，練習作品作成（基礎） 6回目：陶土の成形，練習作品作成（応用） 7回目：陶土の成形，練習作品作成（完成） 8回目：練習作品作成（器作成と素焼き） 9回目：練習作品作成（釉薬と本焼き） 10回目：課題作品（器作成1） 11回目：課題作品（器作成2） 12回目：課題作品（器作成と素焼き） 13回目：課題作品（施釉） 14回目：課題作品（本焼き） 15回目：作品発表，講評 授業の進捗状況によっては変更もありうる。			
【準備学習（予習・復習）等の内容】 特に必要は無いが、もし見つけられれば「津軽焼」に関する解説書などに目を通しておく。			
【教材・教科書】 適宜資料を配付する。材料代として1,500円～2,000円程度必要である。			
【参考文献】 一般的な陶芸に関する本を読んでおくが良い。「津軽焼」に関する解説書などに目を通しておく。			
【授業形式・形態及び授業方法】 実習・実技			
【留意点・予備知識】 安全で動きやすく、泥が付着しても良い服装で臨むこと。			

科目名		デザインⅡ		科目 番号	18
カテゴリー	artを体感する	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 月曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【B】 10名		
担当教員	石川 善朗	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	月～金の11:50～12:40		
【授業としての具体的到達目標】 2次元コンピューターグラフィックス（2DCG）の基礎を学び、与えられた課題をコンピューター上でデザインし、完成できることを目標とする。					
【授業の概要】 課題として「A2」サイズのポスターを想定し、ベクター系、ラスター系の画像処理ソフトウェアを用いて、CGデザインに関する自己表現を学習する。基本的な2次元CGの技術はマスターする。コンピューターにおける画像表現についての流れを理解する。					
【授業の内容予定】 授業当初は座学で、2DCGのファイル作成の基礎を学ぶ。 次に総合情報処理センター画像処理解析室で2DCGの実際の操作を行う。コンピューター上で課題の「A2」サイズのポスターを作成した後、それらについて講評を行う。 授業 1回目：全体の授業ガイダンスと、必要になる道具やソフトウェアの解説 授業 2回目：CG作成におけるコンピューターの作業構造を解説する。 授業 3回目：作成ファイルの保存形式とファイル構造を解説する。 授業 4回目：実際にCG用コンピューターに触れて、その操作方法の基礎を学ぶ。 授業 5回目：CGにおけるベクター系とラスター系の表現の違いについて学ぶ。 授業 6回目：2DCGにおける写真表現技術（ラスター系）について学ぶ。 授業 7回目：2DCGにおける紙面レイアウト技術（ベクター系）について学ぶ。 授業 8回目：ポスター原案作成，レイアウト考案とラフスケッチ作成 授業 9回目：ラスター系によるポスター部品作成 初級編 授業10回目：ラスター系によるポスター部品作成 上級編 授業11回目：ベクター系によるポスターレイアウト作成 初級編 授業12回目：ベクター系によるポスターレイアウト作成 中級編 授業13回目：ベクター系によるポスターレイアウト作成 上級編 授業14回目：ポスター作品完成とUSBスティックメモリで提出。 授業15回目：各自による作品発表と講評 進捗状況により変更もありうる。					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 教材・教科書欄に記述した各ソフトウェアに関する参考書を用意すると良い。 作業状況により各自自習をおこない、各授業ごとの作業に追いついておくこと。					
【教材・教科書】 教材としてソフトウェアAdobe社PhotoShop及びIllustratorを用いる。 各ソフトウェアに関する参考書を用意すると良い。 各自スケッチ用筆記具，スケッチブックなどが必要となる。					
【参考文献】 ソフトウェアAdobe社PhotoShop及びIllustratorに関する参考文献。各種数多く出版されているので図書館や情報処理センターなどで自分が理解しやすいものを1～2冊目を通しておくこと。					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義及び作品制作					
【留意点・予備知識】 コンピューター初心者でも可能であるが、コンピューターグラフィックスの基礎知識があれば、さらに高度な課題作成が可能となる。					

科目名		絵画Ⅱ 芸術表現演習洋画Ⅳ		科目 番号	19
カテゴリー	a r t を体感する	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 7・8時限	難易度・受入可能数	【B】 1～2名		
担当教員	岩井 康頼	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス		オフィスアワー	木, 5～6時限		
【授業としての具体的到達目標】 画材の基礎的技法の応用による, 自己表現ができる。現代美術の表現なども参考に, 比較検討し自分自身の作品を相対化して見れる。					
【授業の概要】 平面による表現研究と素材研究。さまざまな画材・技法について理解し, 自己表現の可能性を実践する。 また, 「自己のテーマ」とは何かを考察する。					
【授業の内容予定】 第1回: 授業の説明。クロッキー 第2回: クロッキーと絵画制作へのコンセプト 第3回: クロッキーと絵画制作 (デッサン) 第4回: クロッキーと絵画制作 (デッサン) 第5回: クロッキーと絵画制作 (着彩) 第6回: クロッキーと絵画制作 (着彩) 第7回: クロッキーと絵画制作 (着彩) 第8回: 完成 第9回: 鑑賞と講評 第10回: 絵画素材とその概要 第11回: 絵画素材とその実践 第12回: 絵画素材とその実践 第13回: 絵画素材とその実践 第14回: 完成 第15回: 鑑賞と講評 「油彩画とテンペラ画」, 「アクリル画とミクストメディア」など, 画材や基礎的技法の応用により自己表現の可能性を研究する。 卒業制作を念頭におき, 各自のテーマに即した具体的な表現と制作法のプロセスを研究する。油彩画, テンペラ画, ミクストメディアと基礎的技法の応用により自己表現の可能性を研究する。現代美の表現なども参考に比較検討する。					
【準備学習(予習・復習)等の内容】 実技の特性上, 授業以外の時間も制作を必要とする。					
【教材・教科書】 油彩画の科学 (美術出版)					
【参考文献】					
【授業形式・形態及び授業方法】 実技					
【留意点・予備知識】					

科目名		美術史Ⅱ		科目 番号	20
カテゴリー	a r t を体感する		区分	専門教育科目	
学期・曜日・時限	後期 月曜日 5・6時限		難易度・受入可能数	【B】 若干名	
担当教員	出 佳奈子		所属学部	教育学部	
Eメールアドレス	idek_48@hirosaki-u.ac.jp		オフィスアワー	特に設定していないので、メールで連絡を取って下さい。	
【授業としての具体的到達目標】 イタリア・ルネサンスの美術に親しみ、その内容と機能を理解すること。					
【授業の概要】 イタリア国内のさまざまな都市に現存するルネサンス期の教会堂や邸宅、また、美術館を巡りながら（講義内のスライドで）、14～16世紀にかけての美術作品や美術家を紹介していきます。そして、この時期の美術が当時の社会や生活とどのようななかかわりをもっていたのかという点について考察し、理解を深めます。					
【授業の内容予定】 1 イタリアの町 2 中世後期からルネサンスにかけてのイタリア美術 3 ジョットの壁画（パドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂） 4 ジョットVSシモーネ・マルティニー 5 マザッチョの壁画（フィレンツェ、ブランカッチ礼拝堂） 6 旅するジェンティーレ／旅するマゾリーノ 7 マザッチョVSマゾリーノ 8 ベノツォ・ゴッツォリの壁画（フィレンツェ、メディチ＝リッカルディ邸） 9 マントヴァのマンテーニャ 10 フェラーラ、スキファノイア宮の壁画 11 ボッティチェリのルネサンス 12 ギルランダイオと北方絵画の魅力 13 レオナルド・ダ・ヴィンチとミケランジェロ 絵画VS彫刻 14 パルマのコレッジ 15 ヴィッラ・ファルネジーナのラファエロ ※内容については、多少変化することもあります。					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 復習が大切です。授業で紹介した作品については、美術全集や参考文献を通して、より深く学ぶ習慣を身につけてください。					
【教材・教科書】 特にありません。授業中にプリントを配布します。					
【参考文献】 ピーター・バーク著、森田義之ほか訳『イタリア・ルネサンスの文化と社会』岩波書店、1992年（図書館で閲覧可能）					
【授業形式・形態及び授業方法】 基本的にはパワーポイントを用いた講義形式ですが、ディスカッションを行う場合もあります。					
【留意点・予備知識】 できれば、イタリア・ルネサンスの歴史について最低限の知識のあることが望まれます。自信がない場合には、高校の世界史の教科書や資料集に目を通しておくとういでしょう。ただし、わからないことがある場合には、質問するようにこころがけてください。					

科目名		彫刻Ⅱ 芸術表現演習彫刻Ⅳ		科目 番号	21
カテゴリー	artを体感する	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 5・6時限	難易度・受入可能数	【B】 若干名		
担当教員	塚本 悦雄	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	etsuka@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日12:00～13:00		
【授業としての具体的到達目標】 ・木彫を日本の伝統としての観点から理解する。 ・木彫作品の制作を通して、木という素材の特性を理解する。 ・木彫の制作手法や道具の扱い方など、基本的な技術を習得する。 ・安全に作業できる					
【授業の概要】 講義で様々な木彫作品を鑑賞した後、小さい木彫作品を制作する。テーマは各自が決定する。ただし、前期の彫刻Ⅱから継続して受講する学生は、通年で人物像（首像）1点完成させる。					
【授業の内容予定】 第1回：授業の説明，木彫についての講義 第2回：木彫の制作 ・作品の構想，アイデアスケッチ 第3回： ” ・木取り 第4回： ” ・ ” 第5回： ” ・粗彫り 第6回： ” ・ ” 第7回： ” ・ ” （講評） 第8回： ” ・中彫り 第9回： ” ・ ” 第10回： ” ・仕上げ彫り 第11回： ” ・ ” 第12回： ” ・ ” 第13回： ” ・ ” （着彩） 第14回： ” ・完成 第15回：講評，片付け ＊授業の進捗状況によっては変更もありうる					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 彫刻作品を数多く観ておくこと。図版でも良いが，美術館，ギャラリー，神社仏閣，町の中にあるモニュメントなど，それらの場所に足を運び実物の彫刻に触れる機会を常日頃より積極的に設けることが望ましい。					
【教材・教科書】 必要に応じてプリント等配布する。					
【参考文献】 建畠覚造他「彫刻をつくる（新技法シリーズ）1」美術出版，舟越桂「森へ行く日」求龍堂 Georges Duby and Jean-Luc Daval編「Sculpture」Taschen 毎日新聞社編「仏像の至宝」毎日新聞社 他					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義および演習					
【留意点・予備知識】 作業服を着用のこと。 教材費（楠材・桂材）として1,000円ほどが必要。					

			科目 番号	22
科目名	人を育む営み（K）			
カテゴリー	教育：人を育む	区分	21C教育科目	
学期・曜日・時限	後期 火曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名	
担当教員	高瀬 雅弘	所属学部	教育学部	
Eメールアドレス	第1回授業時伝達	オフィスアワー	第1回授業時伝達	
【授業としての具体的到達目標】 現代社会においては，青少年による非行や犯罪，フリーターやニートと呼ばれる若者たち，さらには大学生の学力低下といったことまで，青少年のありようを「社会問題」として捉える議論があふれています。大人たちが青少年を理解しようとすればするほど，多くの言説が産み出され，そのことがかえってますます彼ら彼女らをみえにくくしているように思われます。 「青少年問題」の原因は，往々にして「教育の失敗」，すなわち学校に求められることがあります。青少年による事件が起きるたびに，メディアが学校に押しかけるといった光景は，それを端的に表しています。「学校がちゃんとしないから青少年が乱れるのだ」といった捉え方は，必ずしも現代に特有のものではありません。しかしながら，われわれにとって当たり前のような因果関係の説明が，本当に当を得たもののなのかについて検証することがこの授業の目的です。				
【授業の概要】 この講義では，青少年と学校との関わりを，前期近代から後期近代へと至る歴史的な過程のなかに位置づけ，青少年を捉える視座について，受講生の皆さんとともに考えます。具体的には，各回ごとに「青少年問題」にカテゴライズされるひとつのテーマ（言説）を取り上げ，様々なデータや資料を活用しながらその意味や妥当性を検討するという形をとります。 一連の講義を通して，現代の「青少年問題」を自らの視点に立って，批判的に考察できるようになることを目的とします。				
【授業の内容予定】 第1回 イントロダクション 第2回 「育ち」の場（1） －共同体から「教育家族」へ－ 第3回 「育ち」の場（2） －学校の黄金時代から現代へ－ 第4回 「学び」の空間（1） －近代学校という場－ 第5回 「学び」の空間（2） －学級という特殊な空間－ 第6回 学校と「文化」（1） －教育と国民化－ 第7回 学校と「文化」（2） －つくられるジェンダー－ 第8回 学校と「文化」（3） －「反学校」の文化－ 第9回 学校と「競争」（1） －学歴主義の成立－ 第10回 学校と「競争」（2） －学歴社会の虚像と実像－ 第11回 「仕事へ」の変容（1） －学校から職業への移行－ 第12回 「仕事へ」の変容（2） －進路選択とジェンダー－ 第13回 「仕事へ」の変容（3） －大学生の就職活動－ 第14回 「関わり合い」の意味（1） －教室空間の人間関係－ 第15回 「関わり合い」の意味（2） －コミュニケーションへの依存と不安－ 第16回 期末試験				
【準備学習（予習・復習）等の内容】 各回の授業テーマについて，新聞やテレビのニュースやインターネットなどを通じて積極的に情報収集し，現代の子どもや若者をめぐる問題について理解を深めてください。				
【教材・教科書】 特定の教科書は使用しません。				
【参考文献】 授業で配布するプリントにて適宜紹介します。				
【授業形式・形態及び授業方法】 基本は講義形式です。授業の最後にその日の講義・映像の内容についての質問・感想を書いたメモを提出してもらい，次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。				
【留意点・予備知識】 関連科目：・社会学の基礎 ・社会とジェンダー これらの授業を履修済みであると，この授業の内容も理解しやすくなります。				

			科目 番号	2 3
科目名	化学の基礎Ⅱ（B）②			
カテゴリー	もう一度「科学」	区分	21C教育科目	
学期・曜日・時限	後期 火曜 9・10時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名	
担当教員	伊東 俊司	所属学部	理工学部	
Eメールアドレス	itsnj@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日10:20～11:50	
【授業としての具体的到達目標】 有機化合物の表し方と有機化学反応の仕組みを理解できるようになることを目標とします。				
【授業の概要】 有機化合物の構造と合成の基礎について学びます。				
【授業の内容予定】 1. 有機化合物を構成する元素とその振る舞い（第1～3回） 2. 有機化合物の立体構造（第4～6回） 3. 反応はなぜ起こるのか（第7～9回） 4. 電子の流れ図の書き方と考え方（第10～11回） 5. 官能基の性質と反応（第12～15回） 6. 期末試験（第16回） 講義期間の半ばに中間試験を実施します。				
【準備学習（予習・復習）等の内容】 講義の受講前には教科書の該当する箇所を熟読します。また、受講後には教科書内の章末問題に取り組むことで理解を深めます。				
【教材・教科書】 深澤義正・笛吹修治『はじめて学ぶ大学の有機化学』（化学同人）を用います。				
【参考文献】 マクマリー有機化学概説第6版（東京化学同人）を推薦します。 本書は講義で用いる教科書では不十分な部分も詳しく説明されています。				
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式で行います。				
【留意点・予備知識】 有機化学は、物質科学，生命科学の基礎として重要な分野です。有機化学をより深く学びたい人は本科目を履修することを勧めます。				

科目名		化学の基礎Ⅱ（B）③		科目 番号	24
カテゴリー	もう一度「科学」	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 火曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【A】 10名		
担当教員	高田 晃	所属学部	農学生命科学部		
Eメールアドレス	takada@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	いつでも		
【授業としての具体的到達目標】 有機化合物の表し方と有機化学反応の仕組みを理解できるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 有機化合物の構造と合成の基礎について学びます。					
【授業の内容予定】 1. 有機化合物を構成する元素とその振る舞い 2. 有機化合物の立体構造 3. 反応はなぜ起こるのか 4. 電子の流れ図の書き方と考え方 5. 官能基の性質と反応					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 講義の受講前には教科書の該当する箇所を熟読します。また、受講後には教科書内の章末問題に取り組むことで理解を深めます。					
【教材・教科書】 深澤義正・笛吹修治『はじめて学ぶ大学の有機化学』（化学同人）を用います。					
【参考文献】 マクマリー有機化学概説第6版（東京化学同人）を推薦します。 本書は講義で用いる教科書では不十分な部分も詳しく説明されています。					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式で行います。					
【留意点・予備知識】 有機化学は、物質科学、生命科学の基礎として重要な分野です。有機化学をより深く学びたい人は本科目を履修することを勧めます。					

科目名		地学の基礎Ⅰ（Ｂ）		科目 番号	25
カテゴリー	もう一度「科学」	区分	21C教育科目		
学期・曜日・時限	後期 木曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【Ａ】 若干名		
担当教員	根本 直樹	所属学部	理工学部		
Eメールアドレス	nemoto@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	木曜日5・6 時限		
【授業としての具体的到達目標】 自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を獲得します。					
【授業の概要】 私達が住んでいる地球はどのような惑星なのか、どのような物質で構成され、どのような活動を現在行っており、どのような歴史をもつのか、地球を取り囲む宇宙はどうなっているのかを学びます。また、それらの知見がどのようにして得られたかについても学習します。					
【授業の内容予定】 第1回 ガイダンス，地球の誕生 第2回 地球の概観，地球の内部構造 第3回 プレートと地球の活動，地震 第4回 火山活動と火成岩の形成，堆積岩とその形成 第5回 地層と地質構造，地球の歴史の組み立て 第6回 地球と生命の進化 第7回 大気圏，中間試験 第8回 水と気象，地球のエネルギー収支 第9回 大気の循環，海水の循環 第10回 日本で見られる季節の気象 第11回 太陽系の天体，太陽系の誕生 第12回 太陽，太陽と恒星 第13回 恒星の誕生と進化，銀河系とまわりの銀河 第14回 宇宙の姿，地球環境と人類 第15回 日本の自然災害と防災，人間生活と自然環境の変化 第16回 地学的な考え方と21世紀の私たち，期末試験					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 高等学校で1年かけて学ぶ内容を半年間で学ぶため，予習・復習が重要です。講義に臨む前に教科書のその回の該当部分を読んでおいて下さい。講義後は，再度教科書やノートを読むとともに，教科書の練習問題を解いて下さい。					
【教材・教科書】 磯崎行雄・江里口良治篇『地学基礎』（啓林館）					
【参考文献】 杵島正洋・松本直記・左巻健男編著『新しい高校地学の教科書』（講談社） （附属図書館本館で閲覧できます。）					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式で行われ，第2回～第6回および第8回～第15回には，10～15分間程度の小演習がはさまれます。					
【留意点・予備知識】 高等学校で地学を履修していない諸君，あるいは履修したが理解が充分ではないと感じていて，「地学の基礎Ⅱ」を履修する予定の諸君が履修することが想定されています。					

			科目 番号	26
科目名	地球環境学概論Ⅱ			
カテゴリー	もう一度「科学」	区分	専門教育科目	
学期・曜日・時限	後期 月曜日 9・10時限	難易度・受入可能数	【A】 若干名	
担当教員	片岡 俊一 他	所属学部	理工学部	
Eメールアドレス等	授業の内容に関する質問は各担当教員に個別にお尋ね下さい。			
【授業としての具体的到達目標】 地球環境学科では複雑に絡み合った地球全体の自然環境を総合的に理解し、地球環境・災害・エネルギー資源等にかかわる諸問題の解決に取り組むことのできる人材の育成を目指し、全体のカリキュラムを組んでおります。地球環境学概論IおよびIIのねらいは地球環境学科1年生が地球システムの全体像を概観し、2年生以降の専門科目の履修の指針を得ることにあります。				
【授業の概要】 惑星地球の自然の営みは地球とそれを取り巻く大気・海洋、宇宙からなるひとつのシステムとして捉えることができます。最近、人類の産業活動もこの地球システムのはたらきに影響を与える要因のひとつと考えられています。地球環境学概論I（前期）およびII（後期）では、それぞれ専門の教員が分担して、地球システムを構成する各分野の内容を平易に紹介します。固有の分野の枠を越えた分野間の関連も取り上げながら、地球システムの全体像の理解には幅広い分野の知識が必要であることを示します。				
【授業の内容予定】 IV. 地球の活動（2h）（小菅） 1. 地震と火山 2. 大陸と海洋底の動きープレートテクトニクス 3. 地球内部のダイナミクス V. 地殻の形成と進化（3h）（佐々木・柴） 1. 地圏の構成と物質循環 2. マグマの形成と火山活動 3. 岩石の変化 ・ 中間試験（1h） VI. 地球環境の変遷（4h）（根本・堀内） 1. 大陸の移動と地球環境の変遷 2. 天体の活動と地球環境の変遷 VII. 地球環境と人間（4h）（片岡・有賀） 1. 自然災害 2. エネルギー ・ 期末試験（1h）				
【準備学習（予習・復習）等の内容】 上述の授業内容に関連のある事項を自分なりに調べてから授業に臨んで下さい。また、復習を十分に行い、分からないことがないようにしましょう。この授業は多くの教員が担当しますので、教員がすぐ変わってしまいます。疑問点がある場合には、その授業の担当教員に積極的に質問しにゆきましょう。参考文献を読むこともよい復習になると思います。				
【教材・教科書】 教科書は指定しません。教材（プリント等）は必要に応じて配布します。				
【参考文献】 IV. 「地球の活動」関連 ・「地震と断層」島崎邦彦・松田時彦一編（東京大学出版会） ・「火山とマグマ」兼岡一郎・井田喜明一編（東京大学出版会） V. 「地殻の形成と進化」関連 ・「地殻の形成 岩波講座地球惑星科学8」平朝彦他（岩波書店） ・「地殻の進化 岩波講座地球惑星科学9」平朝彦他（岩波書店） VI. 「地球環境の変遷」関連 ・「地球生物学ー地球と生命の進化」池谷仙之・北里洋（東京大学出版会） ・「地球進化論 岩波講座地球惑星科学13」平朝彦他（岩波書店） VII. 「地球環境と人間」関連 ・「地震と建築」大崎順彦（岩波書店） ・「大地が震え海が怒る 自然災害はなくせるか」首藤信夫・片山恒雄（オーム者）				
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式				
【留意点・予備知識】 今後の専門科目を履修していく上での基礎となる重要な科目です。よく理解できるまで復習に努め、積極的に質問しましょう。				

科目 番号	27
----------	----

科目名	環境と社会（A）		
カテゴリー	コミュニティ・デザイン	区分	21C教育科目
学期・曜日・時限	後期 木曜日 3・4時限	難易度・受入可能数	【A】 10名
担当教員	北原 啓司 他	所属学部	教育学部
Eメールアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	火曜日 12:00～12:30
【授業としての具体的到達目標】 「環境と市民，社会，企業，都市」について教養を深め，こうした問題に関して能動的に考察できるようになることが目標です。			
【授業の概要】 環境と人間社会の関係について，都市計画，歴史，景観，住民参加等の様々な観点から3人の教員が問題提起をし，如何にしてそれらと取り組んでいくべきかを考えます。			
【授業の内容予定】 第1～5回（後藤雄二：教育学部） 旧城下町である弘前を例として，都市の内部構造と都市化による地域変化について説明します。 第6～8回（土井良浩：地域社会研究科） 明治以降の港町や漁村地域における社会と空間の変容を眺めることによって，近代における環境と社会の関係を整理し，今後の地域社会＝環境づくりのあり方について考えることを目指します。 第9～15回（担当 北原啓司：教育学部） 持続可能な都市づくりのために必要な視点を整理し，低成長の時代の都市政策の意義を探ることを目的とします。 1) 地方都市における都市計画とは 2) コンパクトシティって何？ 3) 中心市街地活性化と都市計画 4) 高齢社会に必要な都市・住宅政策 5) ストックの時代の都市政策とは 6) 環境政策と住民参加 7) 景観形成とまち育て			
【準備学習(予習・復習)等の内容】 各回の復習は必須です。配付資料や講義ノートを確認して下さい。また，関連した問題を図書やWEBで調べることも望まれます。			
【教材・教科書】 市販の教科書等は使用されません。適宜資料が配付されます。			
【参考文献】 北原啓司：まち育てのススメ（弘前大学出版会）			
【授業形式・形態及び授業方法】 講義形式			
【留意点・予備知識】			

科目名		雪国活性化論		科目 番号	28
カテゴリー	コミュニティ・デザイン	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 月曜日 5・6時限	難易度・受入可能数	【B】 若干名		
担当教員	長南 幸安 他	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	北原： mxg02632@hirosaki-u.ac.jp 長南： cho@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	北原：水 12：00～12：40 長南：月～金 11：50～12：30		
【授業としての具体的到達目標】 「Living with Snow」の精神および「利雪・親雪」の心がけについて会得する。					
【授業の概要】 青森や津軽などの雪とともに暮らす生活を楽しいものにするための意識改革を目指す。					
【授業の内容予定】 北原（前半7回担当）： 雪国であるという条件を決してハンディキャップとするのではなく、むしろ一つの武器としてまちづくりや地域計画に活用している自治体が、国内にいくつかある。その紹介を含めながら、雪国の都市計画の新たな可能性を探る。 1. 雪国の活性化とは 2. 雪国の住まい・まち－行政施策から見た雪国活性化－ 3. 雪国ならではのまちづくり 4. 雪と向き合う新しい仕組み－地域通貨－ 5. 弘前市の雪対策の実態（講師：弘前市企画課） 6. 雪国学とは 7. 総合演習（雪対策とボランティア） 長南（後半8回担当）： 雪の誕生から消滅までを調べ、H2Oの固体状態である氷の種々の特性を学び、積雪の有効利用、アイスバーン対策、雪遊び、雪が青く見えること等を考える。 1. 雪の分類 2. 雪の性質 3. 雪の生成メカニズム 4. 利雪 5. 雪の観察 6. 人工雪の生成 7. 雪を使った発電実験 8. 融雪実験 但し、積雪状況などにより内容が異なる場合がある。					
【準備学習（予習・復習）等の内容】 予習：次回行う講義内容を確認しておくこと。 復習：講義終了後に、講義内容を再確認すること。					
【教材・教科書】 特になし					
【参考文献】 特になし					
【授業形式・形態及び授業方法】 北原は、講義形式で行うが、11月中旬に、弘前市スマートシティ推進室の出前講座を用いたゲスト講師とのディスカッションを取り入れ、最終講義では、海外の論文を用いた演習を実施する。 長南は、講義とあわせて、集中形式で演習・実験を行う。					
【留意点・予備知識】					

科目名		自然地理学Ⅰ		科目 番号	29
カテゴリー	コミュニティ・デザイン	区分	専門教育科目		
学期・曜日・時限	後期 月曜日 1・2時限	難易度・受入可能数	【B】 若干名		
担当教員	小岩 直人	所属学部	教育学部		
Eメールアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp	オフィスアワー	水曜日 3・4時限		
【授業としての具体的到達目標】 身近に存在する地形が，地球規模での環境変化によって形成されてきたことを説明できるようになること。					
【授業の概要】 人間が生活を営む自然的基盤となっている地形は，地球規模での環境変化に対応して形成されていると考えられています。本講義ではおもに東北地方に分布する身近な地形を取り上げ，その特徴・分布・成因などについて画像資料等を活用しながら解説します。さらに地形環境と人間生活との関連についてもふれる予定です。					
【授業の内容予定】 1. 第四紀とは 2. 日本の地形配列とプレートテクトニクス 3. 山地の地形 4. 火山活動による地形 5. 河川が形成する地形 6. 人間がつくる地形 7. 東北地方の地形の特徴 上記1を1コマ，2～7に関してはそれぞれ2コマ程度で行います。					
【準備学習(予習・復習)等の内容】 講義において理解できなかった内容，用語等の復習を中心に行ってください。また，講義で紹介された次週のテーマに関する予習をすることが必要となります。					
【教材・教科書】 高等学校レベルの地図帳を必ず用意すること。授業時にプリント配布。					
【参考文献】 講義時に紹介します。					
【授業形式・形態及び授業方法】 講義					
【留意点・予備知識】					